

令和4年度 広島市まちづくり市民交流プラザ 第1回運営委員会 会議録

日 時 令和4年7月14日(木) 14時00分～16時00分

場 所 合人社ウエンディひと・まちプラザ(まちづくり市民交流プラザ)

北棟5階 研修室C

出席者 (委員) 阿部委員、服部委員、山崎委員、脇谷委員

(プラザ) 横町館長、三次主任

議事及び会議要旨

議事1 運営委員会委員長、副委員長の選任について

運営委員の互選により選任

運営委員長 脇谷委員

副委員長 阿部委員

議事2 令和3年度事業等報告について

事務局から、令和3年度事業実績について報告し、意見が交わされた。

・「企業等社会貢献活動推進事業」の今後に向けて、また、この取り組みに対する評価指標について、プラザはどのように考えているのか。

○この事業の現在の数値目標は「開催回数」になっており、研究会の取り組み内容や発展的変化を計る数値目標にはなっていない。

この事業の今の課題は、研究会の知名度が低く取り組みが外に発信されていないこと。市内23の企業が集う研究会は他施設にはない取り組みで、例えば、就職活動を控えている大学生にとっては、市内の企業の仕事とは異なる面(社会貢献活動)を知るよい機会になるのではと思っている。そのような貴重な場を周知させることは課題の1つだと思っている。また、会員が持つ「社会貢献活動を推進していきたい。」という思いを昇華できる取り組みができているか、もっと何かできるのではないかと、会に参加して良かったと思ってもらえるような、事業内容の充実が必要と感じている。

○講座の場合は、アンケートを配布して受講者の満足度をはかるが、研究会の取り組みはそのようなアンケートで評価することが難しいと思っている。会員同士で情報や意見交換を行い、活動の幅を広げていくことを研究会の目標とするのは可能だが、それらを数値として示すことが難しく、回数や参加者数などを指標とするしかないかと思っている。

・企業が清掃活動をされているのを見かけるが、そのような活動はこれに該当しないのか。

○企業が独自に取り組まれている清掃活動がある場合は、研究会で事例発表をしてもらっている。研究会としての取り組みでは、1月の男子駅伝でゴミステーションを2か所設置して100m道路の清掃をしている。この2年間は新型コロナウイルス感染症拡大時期であったため男子駅伝での清

掃活動は中止した。

・企業の CSR 活動は企業の生き残りをかけて取り組まれているもので、企業も社会や地域に溶け込んでやっていこうと活動され、実績も残されている。近年、SDGs の視点から貢献活動を進めようという動きが出てきた。そのような流れの中で、プラザとして何を目指していくのか、というのが気になった。例えば、参加される企業を増やしていこうとするのか、例えば、どのような活動をしたらいいのかわからない企業への情報提供を目指すのか、そのようなものが分かりにくい事業に思えた。

○研究会の参加企業を増やす取り組みは、現在、行えていないが、企業同士の横のつながりから、新しく入会いただく企業がある。また、昨年度は、マツダ(株)さんから不要になった布(クロス)をウエスに加工販売している作業所の紹介を受け、他企業でも古着の回収と寄贈を実施したとの報告があるなど、加入団体数の増加や取り組みの広がりはあるが、これら加入数や事業数の増加を具体的に事業の目標として掲げてはいない状況である。

・ウエスを作成している作業所は、材料となる古着が無く古着屋で古着を購入していた。そのような状況を知りクロスの回収に協力していた市社協とマツダ(株)で、企業等社会貢献活動推進事業の参加団体に協力を呼び掛けてはという話になり研究会で紹介した。呼びかけの結果、市社協にも企業から問い合わせを頂くなど協力企業が増えた。このような活動は企業同士の関係を深める取り組みの1つにもなり、情報提供や協力依頼によって会員が増えていくきっかけにもなる。広島市全体の企業の社会貢献活動が進んでいけば、市民のみなさんの暮らしもより豊かになるのではないかと思う。

・事業を振り返って評価するというよりも、この先を見据えて進捗の評価をしていくことが必要ではないかと感じた。プラザが事業としてやっている意味は何なのか、将来的にどういった像を目指すのかというときに、例えば、「広がり」とは、現在参加している企業・団体の中だけで活動を広げていくことをいうのか、または、参加団体増を含めるのか。プラザが取り組む事業という点では、現在の会員だけで充実を求めるのではなく、質の向上を図りつつそれらの取り組みを外に発信して、企業の社会貢献活動の種を撒いていくような働きかけが必要ではないか。そういったことを指標として定め、結果どうだったのか評価していくことで、次の展開へつなげていく何かが見えてくるのではないかと思う。

・今年2月、市が「広島市地域コミュニティ活性化ビジョン」を策定した。これは、地域コミュニティの担い手が高齢化により減少し、新しい担い手も増えておらず、地域の取り組みを維持していく事も難しくなっている。このような状況を鑑み、市もこれらの課題に取り組み支援していこうというもの。この取り組みの中に、今、企業にお勤めの方も地域活動に加わってもらおうというものがあり、現役世代の地域活動の参加に行政もなんらかの支援ができないか検討されているようだ。退職してから地域活動を始めるのではなく、勤めながら地域に目を向けてもらい、地域とつながりを築いたのち退職後しっかりと地域活動に関わってもらい、そういった人材育成を市は考えておられるようだ。

- ・人材育成はとても大切。民生委員もなり手が無く定年が3年延びるも効果がない。40～50代の若い年代から参加してもらいたいと思ってる。また、役員は女性が殆どで、退職された男性に参加してもらうことが難しい状況。なんとか男性に地域に出てきてもらえないかと思っている。
- 高齢者対象のいきいきポイントのように、若い人の地域活動になんらかのポイントがあればより参加しやすくなるのではないかと思う。
- ・青少年センターにはボランティア活動をしているグループがたくさん活動しており、そこで育った人材が、今、地域活動や市民活動に関わっている。若い人を育てたらそのまま活動を続けていく流れができる。過去に青少年センターで運営委員会に携わっていたが、施設の目標は参加人数などの数値になりがち。長い目で捉えれば、その時の人数だけではなく、そこで活動した人たちが将来どのような活動に携わっていくか、そういった広がり为目标になればいいと思っていた。若い人たちを育てることや活動できる場所が大切だと実感しており、若者が集っていた勤労青少年ホームが閉館になったことは本当に残念なことだと思っている。
- ・まちづくり市民交流プラザとしては、「まちづくり」としての視点で企業の方たちと何を進めていくのか、という役割を果たしていくと意味が出てくるのではと感じた。

議題3 令和3年度利用者アンケート結果について

事務局から、令和3年度に広島市が実施した「利用者アンケート」の結果について報告し、意見が交わされた。

・(アンケートの「授乳室が欲しい」という声を受けて)授乳室があるのに知られていないのであれば、県の子育てポータルイクちゃんネットなどに掲載を依頼するのも1つの方法では。必要な方はネットで調べて探すこともあるので、必要な人にターゲットを絞って情報を提供できるのではないかと。アンケートに回答した500名のうち、授乳室を必要としている人は限られているはず、その人たちに確実に情報が届く方法を検討した方がよいと思う。

→イクちゃんネットの「にこにこベビールーム」には掲載済みであったため、プラザの多目的トイレにあるベビーシート付近に「キッズスペース(授乳室)」についての張り紙を掲示した。

・利用の年齢層が、60歳代以上が57%、30歳代以下が10%と若い人の利用が少なく、施設を知った理由として「知人の紹介」が40%あるのに興味を引かれた。

○有料部屋を初めてご利用になられる団体様からは、以前、別の会で利用したことがある・知人から教えてもらったという声を聞くことがある。

・アンケートの回収期間(1月～3月)が新型コロナウイルス感染防止の臨時休館期間中(1月～2月)を挟んでいたことを考慮すると、この度のアンケートがプラザの通常の評価であるか、特殊な評価なのか過去のアンケートと比較する必要があると思うが、比較した結果、若い人が少ないとなれば、若い人への働きかけが今後のプラザの課題につながると思う。

・若い人が育つ場所というのは大切に、いくら人材育成が大切だと言っても待っているだけでは難

しい。フェスタに大学生など若い世代が集まるのであれば、それをきっかけに巻き込んでいく働きかけが重要になると思う。例えば、開催スタイルをハイブリッド型にして、現地に参集しても遠隔地からでも参加できる。運営委員会に学生さんに入ってもらおう。若者が輝ける、認められる場を作っていく必要があるように思う。

- ・アンケートを実施するとき、用紙に QR コードを付けて電子回答できるようにするなど、紙と併用すれば参加しやすく、また集計しやすくなるのではないか。もしかすると回答の年齢構成も変化するかもしれない。

議事 4 まちづくり市民交流フェスタについて

事務局から、まちづくり市民交流フェスタの実施について、令和2・3年度はコロナのためフェスタは中止したが、今年度は規模を縮小して感染症拡大防止対策を取りながら実施する予定であることを説明し、意見が交わされた。

- ・若い人が年長者に学び、年長者が若い人に学ぶ。フェスタでもただ歩いて見て歩くだけでなく、互いが交じり合いながら活動するようなスペースがあればいい。

- ・参加体験型のワークショップができたらいと思う。Hm2(ふむふむ)の助成団体にはそのようなことができる団体もあると思う。また、大学では修道大学にひろしま未来協創センターというものがあり、学生が地域で活躍することを推進されていたり、安田女子大学でも国際観光ビジネス学科ではボランティアの視点から人と関わることを考えてみようと言われていたり、様々な大学が地域活動やボランティア活動の発信に力を入れている。公民館にも「リモート公民館ひろしま」がネット上で公民館学習グループ発表会を発信したりしていた。フェスタも1から作るとなると大変だが、そのようなところから情報を仕入れたり、協力を求めて取り込んだりできたらいいのではないか。何か接点ができれば来年度以降も繋がっていけると思う。

- ・(飲食を伴うバザーの中止について) 他の祭りではコロナの影響で飲食ブースや弁当の支給を中止しても、コーヒー等の提供は行っている例がある。フェスタも来場者のことを考えると、コーヒー等の飲み物の提供は大丈夫ではないか。

- ・過去、フェスタでは飲食バザーが無かったが、コーヒーでも出したら休めたりその場に留まってもらえたりするのは、と実行委員会でアイデアを出してやり始めた経緯がある。

→館内には自動販売機も設置していることから、バザーのコーヒー等の提供は可能とした。

- ・区のボランティアまつりも、コロナのため中止してきたが、今年は形をかえて実施しようと計画されている。まつりではなく交流会に変更して、ボランティアさんが集まる場を作ろうと動いている区もある。コロナ禍の中で Zoom での研修も増えたが、社教の福祉のボランティアは人の支援が目的になるため、ネットでの交流には限界を感じている。

- ・対面であれ、ネット越しであれ、人が集まって前向きに意見交流すれば、いいアイデアがいろいろ出てくるもの。結果はどうであれ、様々な意見を取り入れてやってみる、それが行事を実施する目的の1つでもあると思う。みなさんの意見をたくさん出し合っていけば、プラザの活性化にも

繋がると思う。

(実行委員長は互選により決定)

実行委員長 阿部委員

フェスタ実行委員会 9月1日(木) 19:00~21:00

【次回の運営委員会】

フェスタ終了後の予定

閉会